

# サルはハグしてけんかを避ける

## Monkeys hug it out to avoid fights

抱擁がライバル間の緊張を緩和する。

doi:10.1038/news070219-3/21 February 2007

Michael Hopkin

WARDEN,JOHN / INDEX STOCK IMAGERY / NEWS.COM

「反社会的な行動や軽犯罪の解決には愛情が大切だ」とした英国の政治家 David Cameron の発言は、「ごろつきを甘やかす」といって冷笑されたものだ。しかし実は、その先達は動物の世界にいたのだ。メキシコにすむクモザルは、暴力を避けるために抱擁を行っていることが観察されているのである。

この発見をした英国の研究者によれば、抱き合うという行為によって、サル群れどうしが会ったときの緊張がおさまるのだという。逆にこうした抱擁をしなければ、事態は攻撃的な対立、さらには物理的衝突に発展することもある。

研究の対象とされたのは、中南米の森林に生息する野生のクモザル (*Ateles geoffroyi*) だ。このサルは基本的に大きな群れを作るが、食べ物を探して移動しやすいように、数匹単位での離合集散を繰り返す。

リバプール・ジョン・ムーア大学 (英国) の Filippo Aureli は、「ちょうど小さな村で皆が顔見知りのような状態で

す」と語る。「家族のように1つの集団で寝起きして朝食を共にする。その後は、それぞれが職場や学校のような別の小集団へと移動し、また別の集団で昼食をとる、といった具合です」。

こうした状況では、小競り合いも頻繁に起きる。特に、出くわしたサルをライバルだと見なせば、より大きなけんかにつながる危険性もある。この緊張を緩和する方法がどうやら抱擁であるらしく、最初に抱擁を行わないサルの間では、追いかけて回すなどの攻撃的な衝突の確率が高まる。

Aureli は、抱擁による平和的な出会いがなされる場合には、攻撃の確率ははるかに低いとする論文を、共同研究者の Colleen Schaffner (英国チェスター大学) と連名で *Biology Letters* 誌に発表している<sup>1</sup>。

### 出会いとあいさつ

「抱擁は、自分の体の弱い部分をさらけ出す行為であることから、サルどうしの絆を確かめる方法になっているのかもしれない」と Aureli は考えている。しかし、自分の群れの仲間と抱き合う習慣はなく、単に一般的な愛情を表現するための手段ではないようだ。

これまでの研究ではもっぱら、サルがけんかの後、どのようにして仲直りするのかに焦点が当てられてきた。Aureli によれば、野生の世界でけんかを回避するため事前に平和的行動をとることがあるかについては、ほとんど研究されてこなかったという。

人間が日常生活のなかで他人を追いかけてたり攻撃したりすることはあまり



クモザルにとって、抱擁は何を意味するのだろうか。

多くはないが、人間が交わす抱擁や握手と、サルが行う抱擁は、似た関係にあるのではないかと Aureli はいう。

Aureli はさらに、数日間遭遇していないため互いの関係の土台が不確かなサルの間で、抱擁の重要性がより高いのではないかと考えている。これもまさに人間が、何年も会っていない友人に出くわしたときにどう声をかけたらいいものか戸惑うのと同じような話である。 ■

1. Aureli F. & Schaffner C. M. *Biol. Lett.*, 10.1098/rsbl.2007.0041 (2007).



クモザルは小集団に分かれて食べ物を探す。

WARDEN,JOHN / INDEX STOCK IMAGERY / NEWS.COM